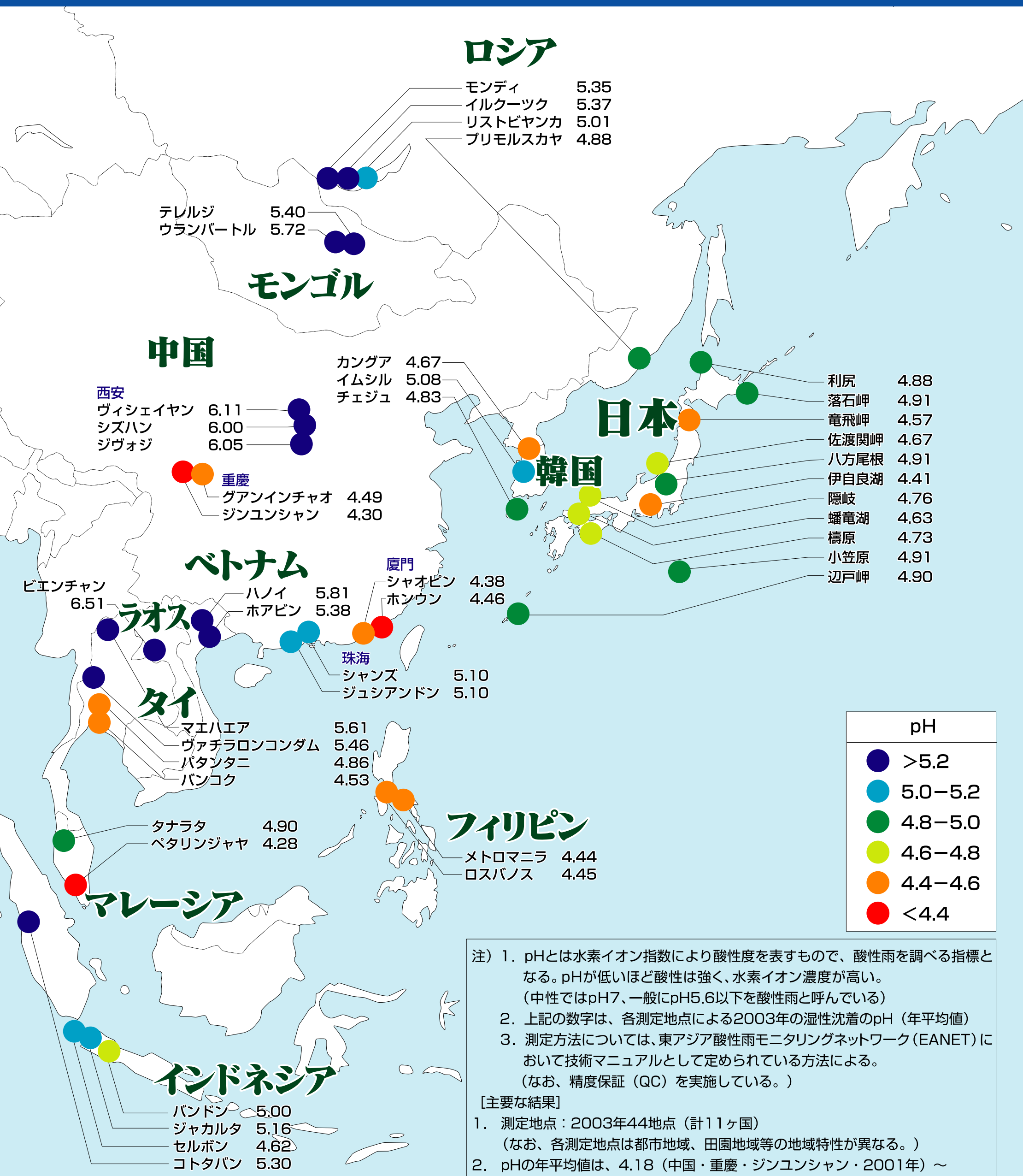
東アジアにおける酸性雨の状況

各測定地点における年平均 pH（2003年）



注）1．pHとは水素イオン指数により酸性度を表すもので、酸性雨を調べる指標となる。pHが低いほど酸性は強く、水素イオン濃度が高い。
（中性ではpH7、一般にpH5.6以下を酸性雨と呼んでいる）
2．上記の数字は、各測定地点による2003年の湿性沈着のpH（年平均値）
3．測定方法については、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）において技術マニュアルとして定められている方法による。
（なお、精度保証（QC）を実施している。）

［主要な結果］

1．測定地点：2003年44地点（計11ヶ国）
（なお、各測定地点は都市地域、田園地域等の地域特性が異なる。）
2．pHの年平均値は、4.18（中国・重慶・ジンユンシャン・2001年）～6.51（ラオス・ビエンチャン・2003年）の範囲に分布。
3．経年的な変化については今後、解析・評価が行われる予定。
4．日本においては、この期間のデータは従前のモニタリングデータと同レベル。
5．北アジア地域ではpHが6を超えるデータもあり、黄砂による中和作用が示唆。